

檀家・市内の寺に協力要請へ

「ついでと軽い言動。安倍総理には憲法に触ってほしくない」。神奈川県小田原市の日蓮宗「本立寺」の住職・遠藤教温(きょうおん)さん(75)は語気を強めます。「安倍9条改憲NO!3000万人署名」を200軒ほどある檀家(だんか)らに配布。市内170寺、全てにも配布する準備をしています。

(遠藤寿人)

小田原の住職 遠藤教温さん(75)

本立寺は610年の歴史があり、教温さんで47代目。中学3年生のとき父親が急死、20歳で住職に。参道入り口には「憲法九条は『殺すなかれ』と説かれたお釈迦(しやくわ)か)さまの教え。平和憲法を守る」と10年以上も掲示しています。



檀家らに送られたのは、お願い「文」と署名用紙。パンフや九条の会



境内の9条掲示板の前に立つ遠藤教温住職

戦争の反省と安倍政権への危機感

安倍9条改憲NO!
3000万人
署名

のチラシ。「文」は「安倍政権の改憲は悪政です。日蓮聖人(しようれん)が『立正安国論』で幕府を諫(いさ)めたように、今日蓮門下の私たちは『憲法九条は変えてはならない!』と声を挙げようではありませんか」と訴えています。

「10枚ほしい」

返信用封筒を入れなかったせいも、届いていた署名は1500人分程度。50代後半の男性が「大事なことから周りに広げたい。署名用紙を余分に10枚ほしい」と取りに來たりしています。

教温さんは「鎌倉のお寺が150寺。小田原のほうが多いんですよ。日蓮宗は社会的に物事を見ていく姿勢が強い。170ある寺が憲法問題で良識の声を挙げ集めれば社会的な影響になる」と期待します。

平和の碑建立

教温さんは学生時代、中国と交流する機会がありました。「人生の大きな出来事だった」と振り返ります。「宗教界は中国への侵略に協力した。その反省が出发点。反省なくして日中の交流はない。日本の仏教は中国や朝鮮の影響を受けている。大恩人のはず」と強く感じたからです。

境内でひと際目立つのは「立正平和」と彫られた「平和の碑」。終戦50年に建立。「檀家全部にお願い状を出し、戦没者の供養と、決して戦争をしない誓い、核兵器廃絶の訴えを込めました」

毎年8月6日の朝には、戦没者の冥福と核廃絶を願う半鐘「平和の鐘」を鳴らしています。教温さんが住職になった直後から始め、小田原梅の里・九条の会のメンバーも参加しています。

「平和運動は侵略戦争の反省と中国の人たちへの罪滅ぼし」と語る教温さん。お通夜の席でも、「命の尊さ」と「戦争の愚かさ」を熱く説いています。



本立寺境内にある「立正平和」と彫られた「平和の碑」